

應



電信譯文

青木外務大臣

在韓

林全權公使

三十三年五月廿日

茅九十二號

貴電茅三十四號ニ關シ露韓祕密約定ハ既ニタイムニ新聞

ニ公刊セラレ歐洲列國ニ於テ之ヲ以テ露國ノ成功ニテ韓國

ニ於テ日本國勢威ノ失墜ナルカ如ク評論スルニ至ルニ依リ

帝國政府ハ早晚事態ノ矯正ヲ計ルノ必要ヲ認メラレシ其

一策ハ露韓兩國ニ對シ諛約是ハ當ニ無要ナルノミナラス日

本國ノ權利ヲ損傷スルモノナラシテ之カ撤回ヲ促シ加之韓國

ニ對シ露國ト同様ニ條件ヲ以テ馬山浦ニ於ケル地區ノ租

0917

借ラ要求スルニ存リ又第二策ハ四月十九日附本官機密芽
二十八號信ノ末文ニ於テ提供シタリ若シ帝國政府ニシテ決
スル所アラバ三月二十八日付貴信機密芽十五號訓令ノ如ク斷
然巨濟島ノ一部ヲ要求スルモ可ナレシ
本官ハ韓國外部大臣ニ會見ノ際密約ノ既ニ歐洲ニ於テ
公刊セラレタルコトヲ告クタルニ同大臣ハ稍、狼狽ノ色ヲ具本
官ハ日本國ニシテ止ムヲ得ル場合ニハ之ニ對スル報償ヲ要求
スルニ至ルベキ旨ヲ再述セリ然レトモ本官ハ帝國政府ノ意向
決定スル迄ハ何等確言セザルベシ

0918

大臣倚

之鶴

電信

青木外務大臣

第五十七號

左通坂田領事ヲ轉電

露國軍艦之ヲ本月六日長崎ヲ入港八日
鎮海灣ニ向テ出發暫ク同灣ニ碇泊ノ模様ニ
依リ自下其行動偵察中ナリ

三十年一月八日發
在金山 着

赤塚領事官補

0919

電信

三十年六月九日晨

權者木外務大臣

在金山赤塚領事友補

芽五十、野

左、通坂田領事、轉電

我偵察、巡查、報告、依、露國軍艦、上陸、

昨日、以、來、鎮海、沖、碇泊、鎮海、海岸、上陸、

頻、陸地、測量、為、之、上、南、引、續、偵、察、中

電信

青木外務大臣



二十三年六月十三日發

在韓

林全權公使



坂田領事ヨリ左ノ通り電報アリタリ

我偵察巡査ノ報告ニ依テ露國軍艦ハ鎮海ノ海岸

ニ於テ廣大ニ地面ヲ取圍ミ一大角三間位ノ柱ニ本ヲ組

合セタルモノヲ四ヶ所ニ建テタル趣ナリ

禮

0921

確

金山十九日

軍令部
附印信

電信

丑山浦領事ヨリノ電報ニ依シハ過
鎮海灣ニ碇泊申上ル露國軍艦モノマツク
ハ鎮海陸上ニ頗ル大ナル地面ヲ取囲ミ
各所ニ抗打ヲナシタリ不明司令長官
近々旅順口ヨリ来ル筈ト云フ依テ本艦ノ
進退ハ至急公使面談ノ上決定スヘシ

三十五年六月十二日

原文ノ子文

仁川


大島艦長

大臣宛

金山十九日
電報ニ依テ
三十五年六月十二日

毎
軍


電報送達紙

局 著		局			發		所 名 人 信 受	
取受 扱者	信受 午	付受 午	月	第				
時	時	日	號	局 報				
分	字	分	日	號	定指	番 著 號 價		
大ナル 地面 各所 (Handwritten telegraph code in katakana)					號			
					事 記			
					印 附 日			
所 名 人 信 發						注 意		
						一此電報を受取り 小渡すへー 一人へ宛たる電報を誤て受取りたる者は其由を付録し 本人へ直送し又は手渡すへらす (Additional handwritten notes)		

明治三十三年八月印刷局印

0925

電報送達紙

局 著		局 發				所 名 人 信 受			
取 扱 者	信 受 午	付 送 午	第	月	日	報			
	時	時				局			
	分	分	號	號	定	番	著		
						信	第		
子工 夕ヲ 以定 口 公使 送 初使 ス 口						事	記		
						印 附 日			
									
						所 名 人 信 發	意 注		
						一 此電報を受取りたるときは成るべく早く受取 小渡すへ 一人へ宛たる電報を誤て受取りたる者は其由を付録し直 ちに之を配達したる電信局所に返戻すへ決して其受取 本人へ直送し又は手渡しすへあらず			

昭和二十三年八月八日印刷局印

0926

電 第六十壹號

左ノ通り坂田領事ヨリ轉電

我偵察巡查ノ報告ニ依リハ「モノマツク」ハ鎮海沖ノマツシマ・ヒツジニマ・リケ
ジマヘモ陸地全様夫々標柱ヲ打テ建テ十三日午後出發シタル趣ナ
リ

電

信

明治卅三年六月十四日發
全全日着

青木外務大臣

在釜山 赤塚領事官補



0927

電報 州三年六月十三日發

青木外務大臣 在釜赤塚領事官補

第六十號

左ノ道坂田領事ヨリ轉電

露國軍艦モノマツクハ十三日午後鎮海ヲ出發ス
ル由其行先浦潮ナリトノコトナレトモ或ハ仁川ナラン

カト思考セラレ

機

0928



電信

卅三年六月十九日發
今日着



Handwritten signature or mark.

青木外務大臣

在韓 林全權公使

第百貳拾五號

坂田領事ノ報告ニ依リ、露國軍艦モ、マツシハ鎮海ノ陸上ニ於テ棒
杭ヲ打テ廣大ナル陸地ヲ取リ圍メリ、右ノ軍ニ航路標識トハ認メ難ク
追テ占有ノ準備ナレヘト果シテ然ラバ露國ハ自カラ韓國トノ約束
ヲ破リタルモノナルニ付、我方ニ於テモ巨濟島ニ於テ適宜ノ處置ヲ執
ラシテハ如何ナルモ其ノ時機ハ自カラ帝國政府ノ御見込アルヘク念
為メ右申進ス



電信譯文 卅三年六月二十日發
合着

青木外務大臣

韓林全權公使

第百貳拾七號

本官和電信第百貳拾五號ニ関シ韓國外部大臣ノ本官ニ語リタル所ニ依
シ韓國駐在露國代理公使ハ韓國政府ノ質問ニ答ヘ其鎮海ニ於テ木
柱ヲ建設シタルハ測量ノ目的ニシテナラスシテ測量終了シタルトキハ之ヲ撤去
スヘキ旨ヲ告ケタル趣ナレトモ該木柱ハ鎮海面スル廣濶ナル地上ニ亘リテ
建設シアルヲ以テ同公使ノ説明ハ信シ難シ

0930

後

電信

廿三年六月廿三日發
名 全 廿四番

青木外務大臣

在釜山 能勢領事

第六十六號

左ノ通坂田領事ヨリ轉電

宮古艦長、取調ニ依リハ露國カ鎮海灣ニ建テタル標木ハ其最後ノ目的
ハ暫ク措キ差向キ土地獲得、為メニアラズシテ今ク鎮海灣測量ヲ為

メナリトコトナリ

右ノ電報ハ外務大臣ヨリ直ニ海軍大臣ヘ轉電方宮古艦長ヨリ依頼アリ

カ

0931

確

戸口九千
露志馬山浦、間口四、於此間、製行七、間高、於此、人、建坪
少、於此、容積五千、噸、有、於、庫、少、積、之、月、留、建
業、六、十、年、中、法、客、為、博、於、人、フ、ウ、バ、ン、ナ、者、力、命、
了、尤、之、紅、點、也、馬、山、浦、入、港、之、年、法、客、必、終、隊、月、令
官、指、官、依、之、云、ノ

戸口九千

蓋

不在所登

上海陸軍領事

電信

廿三年三月十八日午前十一時五分
午後四時五分

9584
17
67088
9584
45116292813620

7240
45

427
294
536
1764
882
9584
451191680
180
116
268
235
430

0932

1906年2月15日付

電信 廿三年二月二十日午前二時發

加藤外務大臣 在釜山 能勢領事

第百號

左通坂田領事ヨリ電報

露國アジア艦隊司令長官軍艦ロシヤ外參艘ヲ率ヒ十九日午前
鎮海灣ニ到着セリ



0933

傳

電信 卅三年三月廿七日 九三〇番

加藤外務大臣 吉原能幹領事

カ百六號

吉田首相領事より電報

十九日米領海灣に碇泊中、夜軍艦「ハイネ」が

「カス」に「ナワリン」に「ロシヤ」に「キウリ」に「シ」に「四艘」に「シ」に「女内」に「キ」に「ヤツク」に「キ」に「ウ」に

「ク」に「シ」に「月」に「長」に「官」に「載」に「三」に「十」に「キ」に「前」に「も」に「清」に「来」に「者」に「者」に「二」に「日」

に「シ」に「ン」に「イ」に「バ」に「ル」に「キ」に「ト」に「シ」に「鎮海灣」に「来」に「ル」に「噂」に「アリ」



0934

電信

廿三年十二月廿三日午前二時三十分發

加藤外務大臣

在金山

能勢領事

芽百四號

左ノ通坂田領事ヨリ電報

露國司令長官ギリヤツクニテ二十日夜未着粟九味

於石炭庫ノ位置ヲ檢分セリ

禮

0935

電



力百之部

左、初、坂、田、領、事、ヨリ、電、報

濱、海、湾、促、泊、シ、成、海、軍、艦、中、「ナ、ロ、リ、シ」、「ナ、ロ、ミ、ナ、シ」、
候、又、月、長、官、ハ、今、橋、濱、海、湾、ニ、在、リ

大、藤、外、務、大、臣

在、金、能、城、領、事

電、信、廿、三、年、三、月、日、廿、日、前、一、二、三、五、番
「一、五、五、番」

0936

電

電信

加藤外務大臣

廿三年十二月廿五日 在釜山 能勢領事

在釜山 能勢領事

芽百六號

左、通リ 督領事ヨリ電報

露艦モソイベリキイ二十四日 旅順ヨリ 鎮海灣ニ来リ



0937

電



電信



三十三年十二月廿七日 午後三時

三五番

加藤外務大臣

在釜山

能勢領事

第百七號

探聞之所、據六日下鎮海灣碇泊中、露國軍艦ハ
近日長壽、赴キ露曆一月ノ祭、濟ニ次第同地稻佐
ニ在ル露國海軍病院ヲ取外シ之ヲ艦隊ニ運ビ来
リ馬山浦ニ建業ス答ト云フ又艦隊ハ馬山浦ニ矢籠
リラスハ答トノコト

0938

確

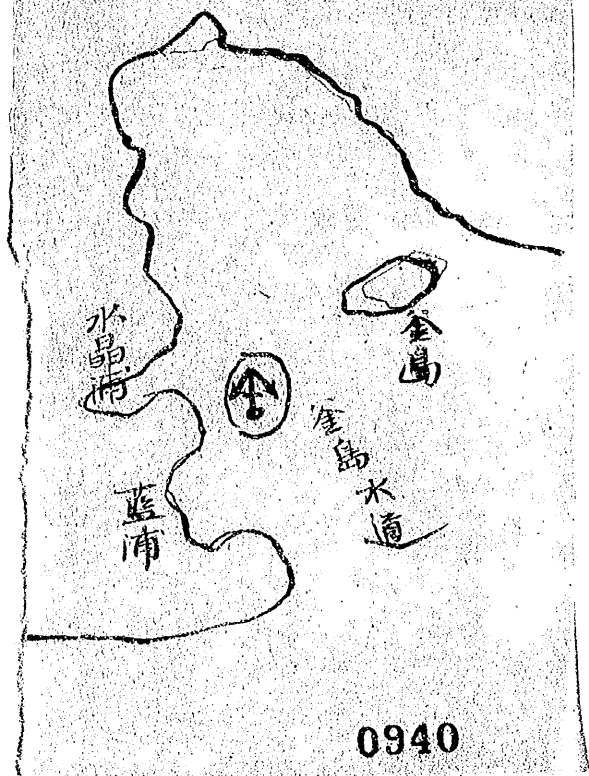
六二號

坂田少将より通電
承領。鎮海湾。本為り



通信
加藤少将
志川能勢少将

0939



電

電信

三十四年二月三十日午前十時五十五分發

午後十一時十八分着

加藤外務大臣

在釜山能勢領事

第參号

左ノ通坂田領事ヨリ電報

露國軍艦ハヒモフ廿八日鎮海灣ヨリフトウスイドウ

ノ藍浦トスイセイホノ中間ニ移リ廿九日スイセイホノ

灣口附近ニ於テ小蒸汽船一艘短艇四艘ヲ以テ測量

從事ス

参

電

電信



加藤外務大臣



在釜山能勢領事

明治三十四年二月一日 右三。發

右六。着

第五号

左ノ通坂田領事ヨリ轉電

露國軍艦「ナヒモフ」ノ短艇四艘三十一日午後フトウスイドウ

中蘆浦トスイセイ浦トノ中間ニ於テ測量ニ從事セリ又同時

ニ小蒸汽船一艘短艇二艘ヲ曳テ沖合ニ出テタリ或ハ「ブ

島又ハ「アストン」島附近又ハ巨濟島「シツセン」スイドウ邊ノ

測量ヲ為スモノカト思ハル尚引續キ偵察中ナリ將又蘆

浦ハ測量シタル形跡ナシ露艦「ギリヤツク」一日(の)長崎

0942

ヨリ入港セリ

第六号

(二月一日右八四〇着)

左ノ通坂田領事ヨリ轉電

本日ギリヤツク入港ト電報セシハ軍艦松島ノ誤リナ
リ

0943

加藤

電信



加藤外務大臣

在釜山 能勢領事

明治三十四年二月一日右六三〇發
右九〇着

第八号

左ノ通坂田領事ヨリ轉電

松島艦長ノ語ル處ニ依レハ露艦ガヒモフハ二月一日小

蒸汽船一艘及短艇五艘ヲ以テ釜島アストン島バアン

島グワ島及蘆浦灣外ノ邊フトウスイドウニ於テ測量

釜島水道

中ナリ

0944

機



電信

廿四年一月廿一日

法一〇三三番

外務大臣

陸坊領事

才四第

才四第領事

目下スイセイハ湾口附近に碇泊中の商軍艦ナヒモフ
不蒸汽船が被ボート六艘ヲ率ヒ辛辛ヨク後沖合ヲ
滑ル来ルヲ認シテ右ニ巨瀬島又ニ加茂島邊ニ於テ
測量ヲ為スモノニハアラサヤト思ハル

0945

號外

秘

電

電報

二月廿八日午後五時東京發
二月廿八日午後七時三十分着

謀總長宛

野津少佐

機

馬山浦ニ在ル露國艦隊司令長官ハ旅
順總督ニ宛テ尚ホ十日間碇泊演習
ヲ終リ三月二十四日頃旅順ニ還ルベ
シトアレキニシテハ之ニ對シ本官ガ
命令スル迄ハ馬山浦ニ留ルベシト
電訓セリ

0946



第三十六號

加藤外務大臣

在韓 林全權公使

電信譯文

京城發 卅四年三月廿五日 午前三時

練兵目的ヲ以テ軍人及大砲ヲ陸揚スル馬山浦碇泊露國艦隊
行動ニ関シ本官ハ韓國外部大臣ニ注意スルニ若シ此行動ヲ不問
附シ去ルミ於テハ好マシカラザル結果ヲ生スルニ至ルヘシトコトヲ以テシタ
リ、本官ハ又露國カ其權利ナク又必要ナクシテ馬山浦ニ武裝衛兵
ヲ置クモ亦タ同一ノ結果ヲ生スヘシトノ事ヲ同大臣ニ對シ陳述シタリ

傳



第三十號

加藤外務大臣

在韓林全權公使

電信譯文

京城發廿五年三月十日午後五時
東京着
后八三五

三月十二日當地ヲ通過シタル旅順口ヨリ鎮海ニ於ケル露國旗艦ノ
司令官ニ宛テタル電信ニ就キ本官ハ帝國政府ノ注意ヲ喚起セント
ス同電信ノ推測上ノ意義ハ本官公使館附陸軍武官ヨリ參謀本
部ニ電報ニシテリ若シ其翻譯ノ真實ノモノトモハ露國ハ十ヶ年ヨリ
短カラサル期限ヲ以テ一ノ海軍根據地ノ租借ヲ韓國ヨリ取得セン
ト欲スルモノト推知スルノ外ニ多分露國人ハ粟九味ニ於テ租借
ヲ以テ満足トスルニシテ或ハ鎮海ニ於テ他ノ租借ヲ取得セント企テ居ル

極秘

毛ノ如シ但シ斯ニ要求、提出サレシハ何等跟迹ニ未ダナシ

0949

此を報告する事

電報

三月十五日午後四時十分京城發
三月十五日午後六時四分着

參謀總長死

野津少佐

覆

昨日電報セシ艦隊ノ「ステーション」ヨシハ「シヤ

ドウエル」(Shardwell) 湾 (譯者曰シ巨島) ナラン

ト察セラルル旗艦々長「ステーション」(Capitain

Stepenko of flagship) ハ過日長崎ノ「ギンズ

ブルグ」ハ日本炭千二百噸「カー」ジ「炭五

百噸」ヲ同地ハ運送スヘキ旨命令セシコ

トアリ

0950

機



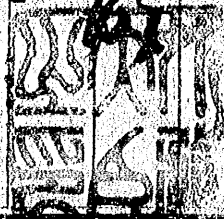
機密送第六五號



鎮西海防、碓氷中ノ六段七段陸軍
兵隊、四月廿七日、水戸、甘野、近
輪地、相、田、山、坂、田、山、
、電、投、、、、、、、、、、、
、、

四月廿七日

外務省



外務省大正四年

十

0951

禮

第二十七號

左、通坂田領事より轉電

電信

金山發 卅四年三月廿六日 辰三。東京着

加藤外務大臣

在金山 能勢領事

露國艦隊四艘、鎮海灣碇泊中三月十五日午前八時ボート十六艘
小蒸氣四艘ヲ以テ武装兵員約八百大砲十六門ヲ漆原半島ノ南
端龜伏附近ニ陸揚ケシ正午歸艦シタリトノ報アリ又公艦隊ハ同日
午後三時拔錨水井浦附近ニ其錨地ヲ移スヤ俄カニ模様替ナリ
明十七日午後仁川ニ向テ出發スルコトナレシ由聞込ナリ

0953

機密送第七〇号

鎮海灣附近ニ於ケル露國艦隊ノ行動關シ左記ノ通在馬山
阪田領事ヨリ電報有之候ニ付此段及法通知候也
明治三十四年三月二十日

外務大臣加藤高明

海軍大臣山本權次郎

電受第七八号

明治三十四年

三月十九日午後

十二時四十分
二時五十分着

加藤外務大臣

山本 能勢領事

第三十一号

0954

左ノ通り坂田領事ヨリ轉電

本官昨十七日露國艦隊訪問際司令長官並艦長ノ語ル所ニ據リ艦
隊明十九日早朝出帆巨島アキセイノ湾其外ニ場所ヲ視察シ暫時仁
室ノ港上旅以テ航スル際定テ旅ナリ而シテ四月十四日ヨリ始メ
耶蘇ノ大船日ニ
軍艦ヲ残ラス旅順ニ集スル旨ニテ此際更ニ池ノ艦隊カ馬山沖方
ニ来ルコ
トナシト云フの高又露國ノ鎮海灣沿岸ニ於テ要求スルニ推定地
點ニ對シテ偵察巡査ノ報告スル所ニ據リ同國士女ノ最モ多ク且
ツ鼠モ屢
上陸シタル所ヲ係原平島ノ南端龜伏ト稱島トシテ形ツクル
龜伏
灣及田浦ノ沿岸並ニ鎮海灣附近也又由テ現ニ三月五日陸上
操練モ
龜伏ノ西ニ有ル櫻野伊島ニ於テ行ヒリルモノナリト云フ

0955



電信
加藤外務大臣

第 三 十 四 號

左ノ通坂田領事ヨリ轉電



我偵察巡查、昨夜歸館報告スル所ニ據テ露國艦隊四艘本月十九日午後統營ノ前面開山島ノ西ニ方ル水道ニ投錨シ直チニ實彈射撃ノ演習ヲ始メ又廿日ニ統營大隊長ヲ統營ニ招待シ響應ヲナス等ナリト云フ將又今回露國軍艦ノ測量ニ草ニ釜島水道ニ止マラス二月下旬以來鎮海附近固城郡沿岸巨濟、沿岸加助島、漆川水道等要スルニ鎮海灣内

釜山發 三十四年三月廿日午後八時
東京着 廿日午前七時

在釜山 能勢 領事

要部ハ概ニ標本或ハ測量旗ヲ打テ立テ大凡クハ測量ヲ為
シ先趨キ而シテ本月廿一日ホート一艘露國艦隊ノ錨泊地ヨ
リ統營海峡ヲ經テ鎮海灣ニ入り来リ測量用標本見廻リ
ヲ為セリト云フ尚ホ露國艦隊其後ノ行動偵察ノ為昨夜更ニ
巡查一名ヲ遊路統營ニ派遣シタリ

0957



電信譯文

京城發三十五年三月廿二日午後四時
東京着ハ一三三〇

加藤外務大臣

在韓林全權公使

茅四十二號



本官電信茅四十二號ニ關シ韓國外部大臣ハ其公文ヲ撤回スルコトヲ
拒ミテ本官ハ語ラ官中傳ヘテ該公文ヲ直ニ撤回セムコトヲ勸告
セリ此レ外部大臣ハ何等ノ權力ヲ有セザラシテナリ

本官ハアララン氏ヲ留任セシムル為メ必要ノ場合ニ此上尚ホ英國
代表者ヲ扶翼シ然レバキヤ同氏ヲ罷免スルハ露佛兩國ニ其自
ラ望ム所ノ人ヲ推舉セシムル機會ヲ與フルガ故ニ最モ望ミシカラ
シトス



電信譯文

京城發三十五年三月廿二日辰四三
東京着ハ七二〇

加藤外務大臣

在韓 林全權公使

第四三號



或ハ内容ノ電信ニ據ル旅順口太守ハ韓國駐劄露國代表
者ニ通報スルニアドミラルハクリト只クハ指揮下ニ在ル船艦ハ約十
日間仁川ニ碇繫セシムルモ差支ナキ旨ヲ以テセリト云フ

聞ク所ニ據レバロシヤ船及ヒナヒモフ船ニ艦仁川ハ不港ニ
シト云フ

0959

電

電信

加藤外務大臣

第百三十七號

左、通坂田領事より轉電

我が偵察巡查二十六日夜歸館報告人所據シバ露國艦隊の前電後何等注意ニ値スル行動ヲ為サス二十五日午前五時半統營ノ錨地ヲ出發シ先趣ナリ

金山發 三十四年三月廿七日 前一二三〇
東京着 在金山 能勢領事

0960

機

電信

加藤外務大臣

能勢領事

第三十五號

左ノ通坂田領事ヨリ轉電

我偵察巡查二十四日朝統營出發歸館報告スル所ニ



據六露國艦隊ハ二十二日一艘小蒸汽ボート一艘ヲ

尖キテ竹林浦ニ赴キタルトアリ又各艦絶ヘズ錨地ノ附近

於テ演習ニ從事スルモ何等注意ニ値ヒスルノ行動ヲ認メ

尚艦隊數日間碇泊ノ模様ナリトトナリ又二十四日夜更

巡查一名ヲ統營ニ派遣シタリ

釜山發三十四年三月廿五日
東京着
釜山
后九三〇

0961

電信
金山突世四年八月廿七日
東京着
加藤外務大臣
在金山能勢領事

第甲八號

左通坂田領事より轉電

栗九味二十七日ヨリ海軍旗ヲ撤シ普通ノ國旗ニ替ヘタリ又露國領事、
言フ所ニ據ル殘留ノ水兵ハ一切武器ヲ帶ハシメ栗九味ノ守衛及
露國領事館ノ保護ヲ為サレム而シテ警察ノ件ハ別問題ニシテ追テ露
國公使ヨリ何分ノ沙汰アルヘシ云々尚又殘留ノ水兵ハ七名ノ筈ナリシ
渡邊書記生カ二十七日栗九味ニ出張シ直接水兵ニ聞取リタル所ニ據リ
ハ水兵ハ全ク八名殘留シ居ルト云フ

機

第四十九號

左、通坂田領事より轉電

露國領事ハ本日本官ニ向テ左、如ク言明セリ

閩東總督アレキセーフ中將ヨリ今般栗九味駐在、海兵ヲ撤シ同地ヲ守

衛弁、露國領事館保護トシテ領事ノ監督ノ下ニ七名、水兵及ヒ一

名、軍曹ヲ置クト、訓令ヲ接セリ右、人員ハ恰モ貴國領事館附警

察官ノ員數ニ均シカラシメタルモノナリ云々



電信
釜山癸卯年四月廿七日
東京着

加藤外務大臣

在釜 能勢領事

0963